

学校経営方針（学力向上に関わる要点）

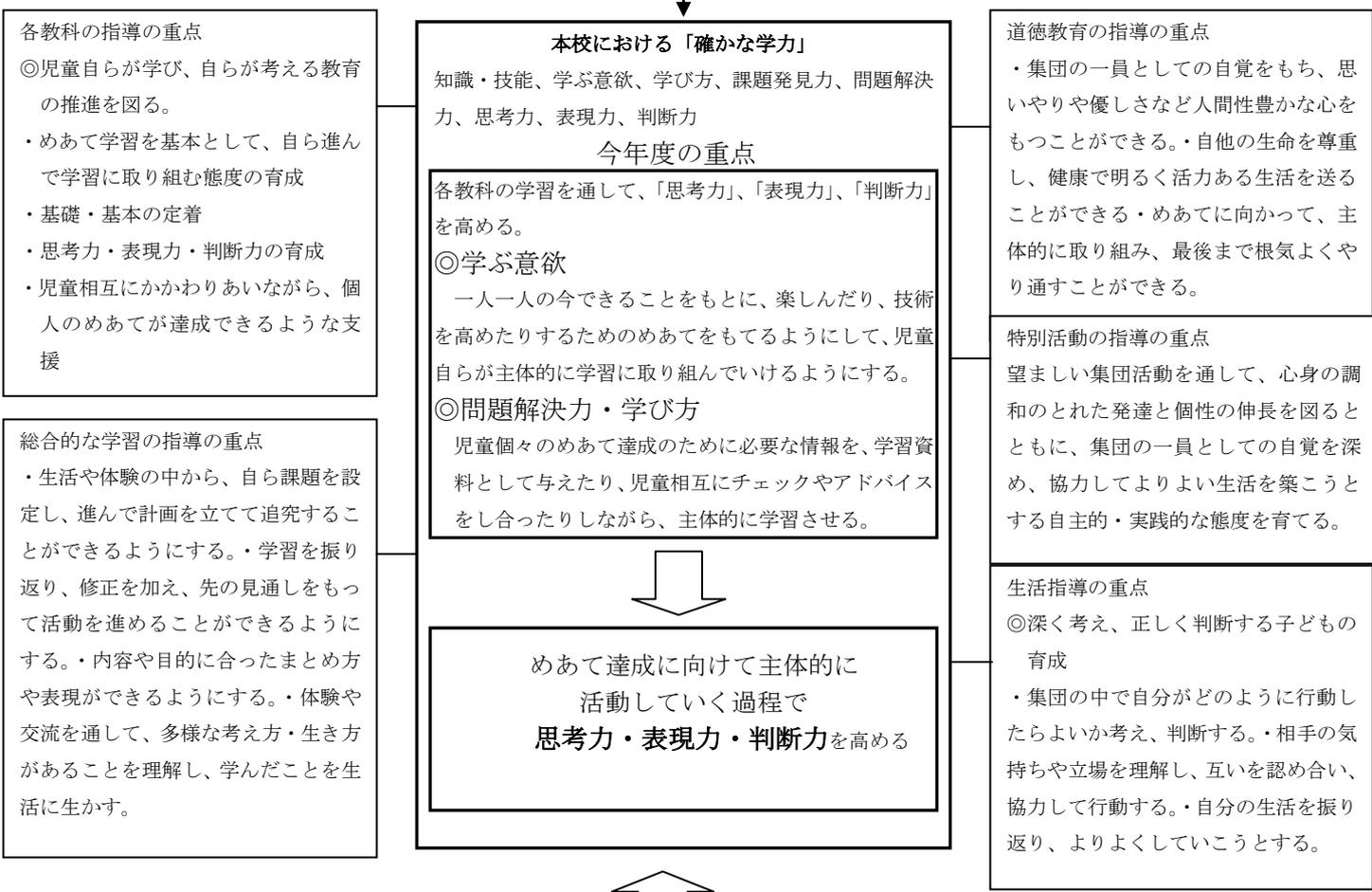
◎児童が輝き、共に学ぶ素晴らしさを実感できる、研究的な学校。

学年段階に応じて、学習の基礎・基本を身につけさせる工夫・積み重ねをする。

体験活動を重視し、児童に、学習の目的や課題を明確にもたせ、その達成を目指した学習ができるようにする。

児童が考え判断し表現することを十分に経験させるとともに、指導者や子供相互で認め合う場を位置づけ、協力して問題解決に取り組む。

I C T の活用を図る等、児童にとってより分かりやすい授業を目指す。



本校の授業改善に向けた視点～校内研究を中心に～				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<p>○道徳指導の基礎基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料選定・資料提示の工夫</li> <li>・発問の精選と工夫</li> <li>・板書の工夫</li> </ul> <p>○自己を見つめる時間の充実</p>	<p>・授業時数を極力減らさず、研究授業の時間を確保するために、月1回の校内研究日の他に火曜日を授業研究日（特別時程—6校時研究授業：年間7回）とする。</p>	<p>・全教員が研究授業を行い、教員一人一人が確かな学力の育成に向けて、授業改善に取り組む。</p> <p>小中連携の研究を生かし授業に取り入れる。</p>	<p>・指導者が声かけを行うと共に、児童相互にかかわりをもたせ、今の自分を振り返らせる。</p> <p>・学習カードをもとに、指導者とその時間の活動を評価すると共に、次時へ向けてのアドバイスなどを行う。</p>	<p>・掲示板で研究授業の様子を伝えたり、学習で使ったワークシートに保護者の記入欄を設けたり、本校の授業改善に向けた取り組みを理解してもらうとともに、家庭への啓発をしていく。</p>